

県高支部ニュース 2008. 5.20. No. 6

兵高教組神戸県立支部 神戸市中央区北長狭通5-2-10 TEL/FAX 078-351-3252

支部ニュース投稿先: 県高支部E-mail: ken_koube@yahoo.co.jp 兵高教組HP: http://www.hyogo-kokyoso.com/

『臨時教職員の集い』大盛況

5月18日(日)、120名を超える臨時教職員が「ひょうご共済会館」大会議室に集い、採用試験対策や、教育をめぐる最近の状況などについて、講座を聴いたり、模擬面接を体験したり、3時間にわたって充実した研修をしました。

合格体験談から……

……臨時講師を経て実習教員に採用されてからの6年間は、通勤時間が2時間ほどかかったため、朝4時起床、24時帰宅の生活が続き、採用試験を特別に勉強する時間が取れなかった。しかし、その生活の中で常々大切にしていたことは、『目の前のことを一生懸命頑張る』ということだ。日々の教材研究や職場での経験を大切にすること、きっとそれが力になる。

面接・討論に関しては、発言に自信を持てるようになってほしいと思う。回答できなくても、的確な対応ができれば問題ない。筆記試験に関しては、すべて解答できる実力をつけていなければならない。(受験者の平均正答率は8~9割だろう。)

講義を聴きながら熱心にメモを取る参加者の姿に、本当に頭の下がる思いをしました。

臨時教職員は、民間の労働者保護法制と地方公務員法のどちらからも適用外になっているという「法の谷間」に置かれています。その待遇改善が急務でありながら、県当局はなかなかその重い腰を上げようとはしません。

臨時教職員の声に真摯に耳を傾け、採用試験の成績開示・労働条件の適正化・報酬額の引き上げ・月給制・雇用の安定・等々の要求を県に突き上げていきたいと思いました。(SN)



神戸の歴史を歩いてたしかめよう！

第5回 国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈 出土地



親和女子中・高校へ続く道の入り口、高羽の交差点に左写真の銅鐸出土と奥には1938年の阪神大水害の記念碑とが並んで立ちます。

桜ヶ丘の銅鐸・銅戈は、現地から陶芸用の土を採取していた業者が偶然出土した銅鐸を店先に並べていたのを見かけたことから発掘調査が始まります。発掘には当時の県立芦屋高校の生徒も協力しました。



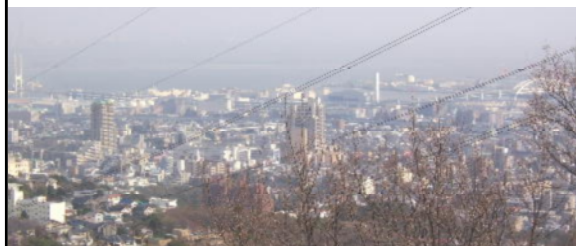
この記念碑よりさらに1 Km 程坂を登った先に、右写真の標識が出てきます。この標識に矢印があるところの崖から出土したわけではなく、標識より更に山中に分け入り、送電線の鉄塔付近の北東側斜面(標高250 mぐらい)で発掘されました。(下写真)



現在、この場所には発掘調査や調査で発掘された場所を特定するものは何らありません。案内がなければ、まったくわかりません。

発掘現場南側の送電先場所より海を眺めると大阪湾が一望でき、南西の眼下には神戸大学教養部のキャンパス(下右写真)も見ることができます。弥生時代の高地性集落との関係を想像できます。(TM)

国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈 出土地は 灘区高羽王谷 付近



5~6月の予定

5月24日(土) 兵庫の高校入試制度を考える市民シンポジウム

13:30~ 西宮・若竹生活文化センター

25日(日) 憲法集会 13:30~ 新長田勤労市民

27日(火) 第1回 支部委員会 18:30~ 高教組会館

31日(土) 兵高教組第92回定期大会 10:00~ 神戸市勤労会館

6月 1日(日) 第2回 臨時教職員のつどい 13:30~ 神戸市勤労会館

変えよう! 「格差社会」集会 14:00~ 神戸市勤労会館

* 県高支部ニュースは、高教組ホームページからカラー版でござらんになれます

『貧困・格差の実態報告集 2008』 <上巻>

格差社会を是正する共同闘争実行委員会 ¥300



3月23日に県民会館で催された集会 誰が作った？「貧困」かえよう！「格差社会」の報告集である。発言を起こしたもので、リアリティに富んでいる。集会には私も参加したのだが、そのときに印象に残ったことと、あらためてこの報告集を読んで考えることとはずいぶん違っている。

当日印象に残っているのは、「郵便事業が民営化されてから勤務日数が減らされて、勤務のない日にはコンビニでアルバイトをしないと生活費が足りなくなった」、「県からの私学助成金が減られ、入学説明会の日には物品購入があるので欠席した生徒がいる」など、報告者の貧乏の実態報告であった。悲惨な状況に気をとられて聞き逃していたのだが、その話の後には、必ず、「私たちはこう闘

っている」との話が続いていたのである。

農業については、農家の生活苦に続いて、実際には米は足りないのに、「米は余っている」とのごまかしの政府報告があり、農家だけではなく消費者の皆さんと一緒に国民的合意を勝ち取って農業の未来を開こうと発言している。

格差社会をなくしていく一つの方法として、生存権裁判を各地で闘っている人がいることなど、自分の仕事や地域に関連して、運動を続けている方々の報告もある。

最後に、石川康宏神戸女学院大学教授の「国民は97年をピークに貧乏にされている。世に貧困・格差を論じた本はあまたあるが、この貧困からどうすれば抜け出せるのか、その闘いの展望、明るい光を示す『貧困研究』でなければならない。」とのくわしい分析とまとめがある。

貧困・格差とどう闘うか、ヒント満載である。下巻にも期待したい。

冊子に収められている写真は3月2日東遊園地の「なくせ貧困！守れ雇用！」の写真等、いろいろな集会の写真が用いられており、中に支部旗とともに県高支部の面々が写っているのはご愛敬。購入お申し込みは、支部、本部へ。

神戸北高校より北に住んでいる生徒が東灘区の学校まで？

神戸第二学区と神戸第一・芦屋学区との統合を止めよう

学区拡大で通学費、通学時間はさらに増加 受験競争はさらに激化

県教委は2月に高校教育改革第二次実施計画を発表しましたが、複数志願制度導入に合わせて行おうとしていた神戸第一・芦屋学区と神戸第二学区との学区拡大を、「今後検討する」と事実上先送りさせることができました。

その背景には、神戸県立支部も加盟する「鈴蘭台高校と鈴蘭台西高校を守り発展させる会」が、両校の統廃合に反対する署名活動を通じて第二学区に在住する方々を中心に多くの方々の賛同を得られたことがあると思います。

同会は、両校の統合が、学区拡大につながり、それにより

全日制公立普通科高校への受験がさらに困難になる

さらなる教育費負担を招く など、

北区の教育条件を悪化させるとして、県教育委員会とも何度となく交渉を重ねてきました。

統廃合反対の署名活動中には、「いまよりも北区のもっと北に学校が欲しい」との声を多く聞きました。北区にある最も北の学校は神戸北高校です。しかし、この神戸北高校でも、北区の真ん中あたりに位置しています。藤原台など、岡場駅周辺にも住宅が開発され子どもたちがたくさん暮らしています。この子どもたちの通学は一体どうなるのでしょうか。

仮に学区が拡大されれば、北区の神戸北高校より北にすむ子どもが東灘区の高校までかようことも出てきますし、逆もあります。子どもたちと保護者にさらなる通学費と通学時間をかけ「(高校を選択した人の)自己責任」とすることなど、とうてい許されません。

STOP「改革」押し付け！ 県教委の暴走を止めるのは…

一方で、神戸第1・芦屋学区と第2学区へも複数志願制の導入が強行される計画が発表されました。何やら、2回受検できるような「おいしい」雰囲気を持つこの制度。「総合選抜制度のいいところと単独選抜制度のいいところをあわせたもの」と県教委は手放しで自画自賛します。しかし、何を根拠にそのようなことを言うのでしょうか。選抜制度の仕組みも含めて、今、改めて、複数志願制度とは何かを考えてみるのが大切です。

【神戸第三学区の高校生】

- ・学校の格差が広がってしまったと思う
- ・落ちた奴が結構いた。以前の制度より酷になっているのは確かなことだと思う

わが子とみんなに豊かな高校教育を考えよう！「兵庫県の高校入試制度を考える市民シンポジウム」

子どもたちの未来や進路に関わる高校入試制度が、保護者や教師もよくわからないうちに大きく変えられようとしています。県民みんなで考えるときが来ています。

今週5月24日、兵庫地教連(「高校教育改革の押し付けに反対し地域に根ざした教育をめざす兵庫県市民運動連絡協議会」の略称)主催で、JR西宮駅より北東5分のある「若竹生活文化センター」で13時半よりシンポジウム(参加費無料)があります。教職員だけでなく保護者も多数来られると聞いています。組合員・未組合員・他組織組合員など、関係なく集まって自由な討論に参加しませんか？

(TM)